



第 24 回岩手県医学検査学会 in 中部地区

『平成から令和へ～新時代の臨床検査～』閉幕

去る令和元年 11 月 17 日、北上市日本現代誌歌文学館で開催されました第 24 回岩手県医学検査学会の終了にあたり実行委員長兼中部地区会長の高橋庸一郎様よりご挨拶を頂いておりますのでご紹介いたします。

第 24 回岩手県医学検査学会を終えて

実行委員長 高橋 庸一郎 (北上済生会病院 中部地区会長)

第 24 回岩手県医学検査学会が令和元年 11 月 17 日に日本現代詩歌文学館(北上市)に於いて開催されました。

朝から時折強く、冷たい風が吹く中で開催された本学会でしたが、元号が変わり令和初となる節目の年に中部地区担当で本学会が開催できることに喜びを感じ、参加された皆様に有意義な学会となることを目標に準備を進めてきました。

学会のメインテーマは「平成から令和へ」、サブテーマを「新時代の臨床検査」をテーマとし一般演題 8 題、技術セミナー 2 題、公開講演のほか、協賛メーカーによる機器展示のプログラムを準備して皆様をお迎えしました。

一般演題では、多忙な業務に勤しむ中での症例検討や日常業務の課題など日頃の研究の成果を十分に発揮された発表でした。技術セミナーでは海外への渡航が容易になったことが原因とされ、今年度増加しております感染症の話題として「麻疹の最近の話題(流行状況と感染対策を中心に)」と題しセミナー 1 を。今後、益々臨床

(い わ て)

検査業務に参入してくると思われるAI関連の話題として「診断支援システムDSSのご紹介」と題しセミナー2を協賛メーカーよりご講演いただき研鑽を重ねることができました。

公開講演では、今年4月に世界的なニュースにもなりましたブラックホールの撮影に多大なる貢献をされました国立天文台水沢 VLBI 観測所 特任研究員の田崎文得氏を講師に迎え「ブラックホール撮影～プロジェクトの裏舞台」と題しご講演いただきました。講演では、撮影に成功した EHT(イベント・ホライズン・テレスコプ)プロジェクトに世界中から200余名の研究者が参加し、世界6か所にある8つの望遠鏡を組み合わせ地球サイズの仮想的な電波望遠鏡として機能させ、そこに記録された膨大なデータから天体の情報だけを解析し画像化する作業に大変苦勞されたことや、ブラックホールを動画で撮影するなど今後の課題も含めまして、どのようにして観測から成果発表まで至ったかお話しいただき、多くの会員、一般来場された方々が耳を傾けて聴いていました。

また、閉会式典の前に行われた抽選会では、行森会長に抽選していただき中部地区の特産品を景品とし大いに盛り上がりました。

最終的な参加者数は会員78名、賛助会員37名、一般30名の合計145名と多くの皆様にご参加いただきました。

今学会を開催するにあたり、中部地区技師会会員、賛助会員、岩臨技理事の皆様には多大なるご支援ご協力を賜り、おかげさまで滞りなく終了することができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、参加された会員の皆様にはご多忙の中、今学会にご参加いただきありがとうございました。

最後に、来年度は北日本支部医学検査学会(第9回)が岩手県担当で行われます。岩手県技師会会員の今後とも変わらぬご協力をお願いすると共に成功のうちに終わられること、そして、岩手県臨床衛生検査技師会の更なる発展と会員皆様のご健康とご活躍を祈念いたしまして、今学会の報告とさせていただきます。

(い わ て)

学会様子 等

ここが学会会場の日本現代誌歌文学館です

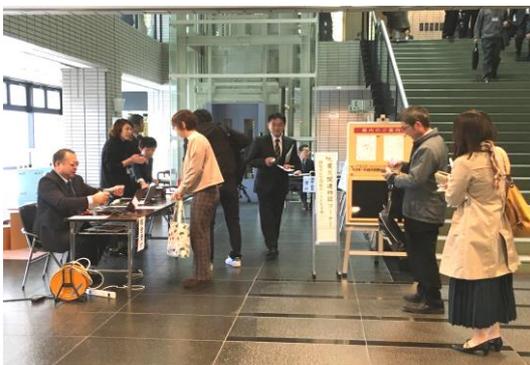


会場の池には鷺が置物のようにいました



ご家族づれやカップルが結構みられました。
館内の受付係のかたにきいたところポケモンの捕獲場所？みたいですごい時にはなんじゃこりゃ〜
っというほどひとが集まるみたいです

受付の様子です
慌てることなくたんと進んでいきます



受付の反対側(中央階段を挟んで)は名札
に名前を書いてもらうブースです



開会式 会長挨拶です



アップでパシヤリ



(いわて)

これから午前の部の演題発表にはいります。突然の質問にも対応していらっしゃいました



技術セミナーです。麻疹について(デンカ生研)と
診断支援システム(アポットジャパン)にお話しいただきました



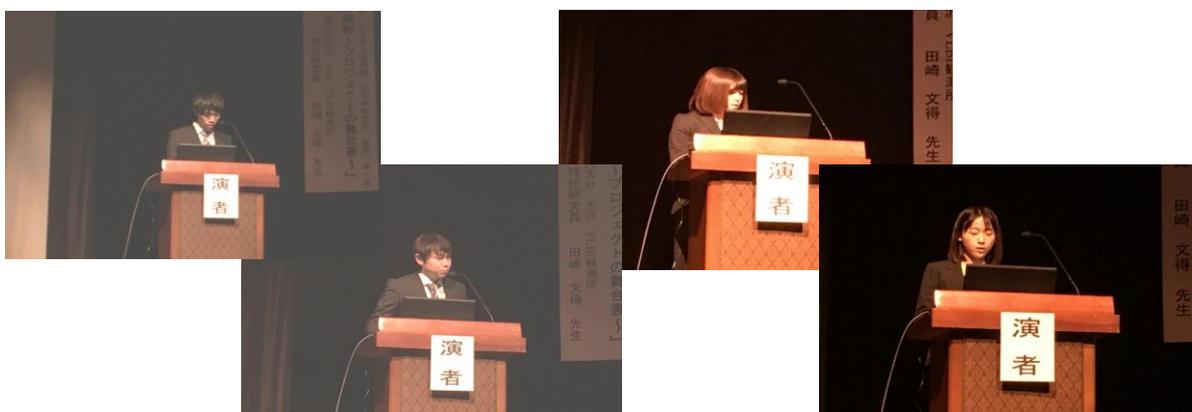
これお弁当。わらび餅と～
おしながきがあるんだ。ほ～っ。



機器展示ブースです。中央階段上がってすぐのロビー両側に展示してありました



午後の部の演題発表です。落ち着いて発表していらっしゃいました



(いわて)

公開講演『ブラックホール撮影～プロジェクトの舞台裏～』と題して



国立天文台水沢 VLBI 観測所

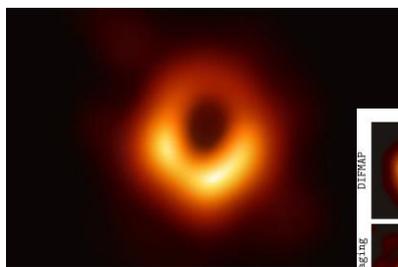
特別研究員の田崎文得氏に撮影までの経過や広報活動(広報係もやっていたそうです)などのことについてお話いただきました。一般来場者からも難しい質問が投げかけられていましたが笑顔でさりりと答えられていました。

小さい娘さんがいるそうですが元気ハツラツとしていらっやいました。すごい。

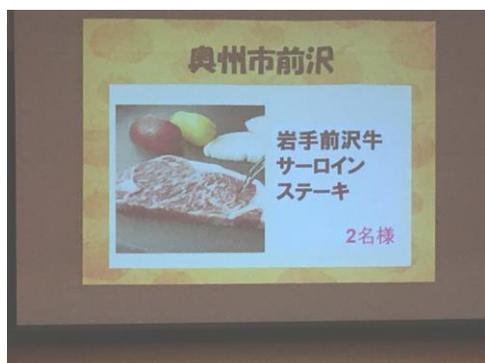
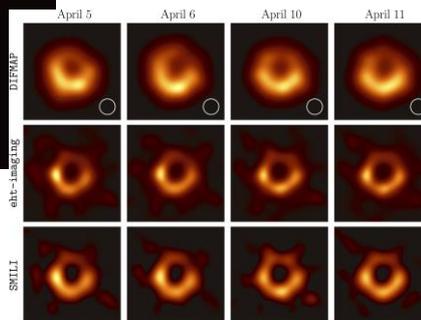
ちなみに、これ望遠鏡。
アンテナじゃないよ



このよく見る写真
広報用の写真なんだって
...っということは



じゃ～ん。これらの画像
を組み合わせた写真
なんだって



はい、お待ちかねのお楽しみ抽選会です。
地元のお酒やお菓子の他になんとまあ前沢牛が
景品としてあったのです。
ちなみにご当選された方のお名前は伏せておきますね。
い～なあ。



(いわて)

第24回 岩手県医学検査学会

ホットジャハン株式会社
テクニカルスペシャリスト 佐々木 隼 先生



閉会宣言ののちみんなでハイチーズ。皆様お忙しい中たいへんお疲れ様でした

研修会等のご案内

【日臨技北日本支部 総合部門研修会】

内容：『災害時に求められる対応と災害や困難にも負けないより良い検査室作り』

日時：令和2年2月15日（土）13：00～16日（日）12：30

会場：札幌医科大学 教育研究棟 I D102 講義室

北海道札幌市中央区南1条西17丁目

定員：60名

参加費：会員6,000円、非会員7,000円、学生 無料

日臨技生涯教育点数：基礎教科30点



*各研修会・学会の詳細はHP等でご確認ください

検査と健康展 in 一関開催されました

令和元年11月3日に一関コープコルザで開催されました『検査と健康展』について報告が届いております。たくさんのご来場者で盛況（コープだけに）のうち終了いたしました。担当の南部地区の会員ならびに盛岡地区の会員のみなさまおつかれさまでした。

(い わ て)

岩手県立大船渡病院
臨床検査技術科 藤田 ちひろ

今回「検査と健康展」に初めて参加させて頂きました、県立大船渡病院の藤田です。

普段は細菌検査を担当していますが、去年までは生理検査をやっていました。経験があるので担当は肺機能検査でいこう！と気軽に思っていたら機械の操作はまさかのぶっつけ本番とのことで、不安を抱えながら会場に来たのですが、同じ担当の方々に助けられました。



実はこういったイベントに参加すること自体が初めてでしたので、てっきりお客さんに声がけをするものだと思って売り子よろしく声がけをしていたのですが、皆さん思いのほか静かで声がけするものなんだか恥ずかしいような感じもしました。でもお客さんが振り向いてくれると嬉しいのでじゃんじゃん声かけちゃいますね！開始直後は人もまばらだったのですがお昼頃には待合い席が空かないほどいっぱいの人に来てくれました。が！来てくれたのは嬉しいのですが、多すぎて逆に捌き切るのが大変になってしまいました…(涙)。あるお客さんが、ちょっとした手違いで順番が逆になってしまったところ、だったら帰る！となってしまったのを必死になだめたりと大変でした。

人と接する検査はこういうところが大変だよな…と思いつつ、でも相手の気持ちや言葉をダイレクトに感じることができる生理検査っていいな～とも改めて感じました。病院の外でたくさんの方々に検査への興味を持ってもらえるこのようなイベントが、私の住む地元



でも行うことができたらうれしいですね。最後にはおもちパンを頂いて大船渡に帰りました。おもちパンおいしかったです。最初は大丈夫かな～と不安でしたが参加スタッフの皆様と無事終えることができました。機会があれば次回もぜひ参加したいと思います。このような機会を頂きありがとうございました。



令和元年度第4回理事・部門長合同会議議事録

日時：令和元年11月23日（土曜日）14：00～

場所：岩手医科大学附属内丸メディカルセンター 循環器センター3階研修室

出席者：行森良一 菊池英岳 畠山秀樹 高橋一博 宮本祥一 高橋庸一郎
村上美月 山崎勝登志 岡田進 下川波歩 千葉拓也 中沢和浩
舘野幸枝 柴田祐二 小野寺奈緒 小原丈裕

はじめに(行森)

県学会、検査と健康展が終了した。県学会の田崎文得先生によるブラックホール撮影についての特別講演では一般の方が多く参加され、興味深く聞かせてもらった。第9回北日本支部学会に向けて、他部門連携により最大限力を発揮し取り組んでいけたらいいなと思いました。

I. 報告事項

1) 北日本支部連絡会議報告(行森)

・令和元年度 北日本支部幹事・学術部門長について

支部長から部門員変更の説明があった。

・日臨技支部長連絡会報告

支部学会のプログラム集の発送費について、現在は各都道府県が負担しているが、学会会計より支出する方向で進めることになったと説明があり、北日本支部でも各道県の発送費を調査することにした。

・令和元年度北日本支部学術活動報告(中間報告)

ランチョンセミナーについては、コンプライアンスに抵触するため講師・テーマを指定して依頼してはいけないことを確認した。

・令和2年度北日本支部研修会について

岩手県学会は、北日本支部医学検査学会があるため開催しない。

非会員の臨床検査技師に講師を依頼しても良いか質問があり、外部講師として招聘することは問題ないとした。

・北日本支部医学検査学会(第9回)について

メインテーマを『融和と協調』とした。来るべき超高齢社会で検査技師がすべきことは患者に対し正確で最大限の検査データを提供することが使命である。医療人の一員として患者の利益になるよう努めることは当然だが、他職種連携についても重要だと考える。そこで本学会では、技師間の連携はもとより、他職種連携医療についても考えることができればと思いこのテーマにした。サブテーマは『じえねしす(発端)・じえねらる(幅広い知識)・じえねれいしょん(世代)』とした。それぞれの世代の強みを生かした検査室の運営や学会・研修会等への積極的な参加による幅広い知識を持ち、その知識と経験をもとに何かを始める発端となる。そんな技師を目指そうという想いを込めてこのテーマにした。サブテーマの頭文字を読むと『じえじえじえ』となる。

(い わ て)

- ・北日本支部学術部門活動について
支部研修会の北海道と東北の分離開催について各部門長から意見を確認したところ、現行の方式での希望が多数であったので、北海道と東北地区を含めた研修会の開催はこのまま継続することになった。
- ・第 69 回日本医学検査学会について
柴田オブザーバーから一般演題登録の状況報告があった。10/4 現在、32 題。
今回からスキルアップセミナーは日臨技主催となり、認定に関わる内容のみとなった。
岩手県の一般演題登録数は、目標数 10 題に対し 11/18 時点で 1 題となっており、周知がされていないのではないか。4 題くらいになる予定。
- 2) 第 24 回岩手県医学検査学会(高橋)
11 月 17 日中部地区担当で北上の現代詩歌文学館において行われた。参加人数は
会員 78 名、賛助会員 37 名、一般 30 名の計 145 名であった。
- 3) 第 8 回日臨技北日本支部医学検査学会視察報告(下川)
 - ・会場等
2 会場で行われ、やや遠く感じる距離だった。会場 2 カ所は大変ではないか。
 - ・受付周り
受付の順序をもう少しスマートにできたのでは。
スタンプラリー等もあったが、説明がなく宣伝効果が薄いように思った。
 - ・一般演題
7 会場あった。不備等はなかった。
一般演題の講演時間 6 分、質疑 3 分、移動 1 分。タイムキーパーのアラームの音が大きく、一部演者はブザーで驚いたためか一瞬発表が途切れることがあった。ランプだけで十分ではないか。
1 日目最も聴講者が多かったのは『免疫』で 90 名程度。次いで『生理』で 70 名程度。
2 日目もっとも多かったのは『生理』で 100 名程度、次いで『輸血』で 70 名程度。
 - ・特別・教育講演
1 日目最も多かったのは『教育カンファレンス輸血』で聴講者は 130 名程度であり立ち見が出るほどであった。『日臨技企画会長情勢報告』が 100 名程度、『学会企画 RCPC』が 110 名程度、『若手企画 AI の進出に伴う臨床検査室の変化』が 70 名程度。
 - ・公開講演
聴講者は 100 名程度。一般の方は多くはなかった。
 - ・ランチョン
ランチョン整理券が配布時間までに届かなかったりバタバタしていた。
お弁当が傷んでいたようだ。
 - ・その他
前日の準備は早くから始めたようで、夕方訪れたときは終了しており、スタッフの最終打ち合わせをやっており段取りがいいなと感じた。当日も 8 時にはスタッフがほぼ全員集合して最終確認していた。
託児所は事前登録だったが利用者はなかったとのこと。ホームページ上でのアナウンス等がうまく伝わっていなかったのでは。次学会でも設置予定。

(い わ て)

Ⅱ. 第 9 回日臨技北日本支部医学検査学会について

メインテーマ・サブテーマは決定。

ポスターの構図・情報量は大体決まり、絵・写真は山田プランニングに別案をお願いする。

7 会場で行う。

1) プログラム

・一般演題

100 題程度を目標に、部門ごと早めに演題募集を。座長は演題が締め切られた時点で各県に振り分け決めてもらう。

・特別講演

諏訪部先生に依頼している。

・公開講演

ボケー座に依頼し、了承を得た。

・教育講演、教育カンファランス、教育セミナー

2 日間で 20 個程の企画を考えなければならない。部門長さんには教育系の講演を 2 つ最低でも 1 つ考えてもらう。他職種・他部門連携を盛り込んでみては。

・RCPC

他職種、他部門連携を盛り込んでみては。

慣れた先生にお願いし、回答者を予め決めておく方がいいと思う。

・日臨技企画

高校生ガイダンス、学生フォーラム、会長情勢報告、臨床実習についてはありそう。

・若手企画

・ランチョンセミナー

第 8 回学会(山形)の報告を参考にする。

・機器展示

・式典

・懇親会

2) その他

・ホームページは県立釜石病院 佐々木さんをお願いした。

・前回の学会の資料やタイムスケジュールがあると動きやすい。何をいつまでにやればいいのかを取りまとめてもらいたい。

・各部門ごとに教育講演でどのような内容でやりたいかなど提示してもらう。心電図の認定セミナーなど認定のコマを入れてもいいのでは。『融和と協調』に関するシンポジウムなど盛り込んでみては。

Ⅲ. 岩臨技ホームページについて(株ぴーぷる)

・スケジュールや経緯のおさらい

・現在の進捗報告

4 月のリリースに向けて作業を進めているところ。スマホ対応のデザインも作製した。



今回の『つなぐ』は岩手医科大学付属病院の松村啓太さんです

“つなぐ”

今回川久保病院の佐藤拓さんから「つなぐ」のバトンを受け取らせていただきました。岩手医科大学付属病院の松村啓太です。病院移転が無事終了し、矢幅の新病院で神経生理をメインに生理検査に携わっています。

私は就職してからやり始めた2つの趣味について書かせていただきたいと思います。1つ目はマラソンです。

就職してから3年目になりますが、昨年の春に先輩に誘われ、奥州きらめきマラソンというフルマラソンに参加したのがきっかけでした。まさか自分がフルマラソンを走るようになるとは考えもしませんでした。それ以降、マラソンにはまっぴら、サーモンハーフ・矢幅ロードレース・イーハトーブ花巻ハーフマラソン・七時雨マウンテントレイル・シティマラソンなど県内の大会には積極的に参加しました。よくなんでマラソンなんてやるのかと言われるので、個人的なマラソンの楽しい点をお伝えしようと思います。1つ目はたくさんの地元の人たちが楽しそうに応援してくれることです。普段では感じられない



七時雨マウンテントレイル
みんなでゴール

量の声援にテンションが上がります。2つ目の楽しみポイントは、折り返しでの仲間とのハイタッチです。見つけやすい服装でないとなかなか大変ですが、大会によってはアプリで仲間の位置がわかるものもあります。フルマラソンの方が折り返しが多いので楽しみはより増えます。お勧めです。3つ目は、深夜ラジオを聞きながら走ることです。TBSラジオのJUNKやニッポン放送のオールナイトニッポンをよく聞くのですが、特にバナナマンのバナナムーンゴールドとオードリーのANNが毎回面白いですが、面白すぎてニヤニヤしながら走ってしまうのが弱点ですが、1番組2時間なので気づいたら20キロくらい走れます。おすすめです。つい先日シティマラソンがありました。無事完走できました。見慣れた街並みを走るのはとても気持ちがよく次もあるなら出たいと思います。

2つ目の趣味は登山です。去年初めて山形の月山に登り、今年は岩手山・早池峰山・兜明神岳・姫神山・秋田の駒ヶ岳に登りました。毎回きついなあと感じながらも綺麗な景色を見るとまた登りたくなります。また山頂のご飯は最高です。今年後輩からアウトドア用のガスバーナーを買ったのでコーヒーやカップ麺をみんなで楽しんでいます。どの山もおすすめなのですが、早池峰の岩場や梯子が個人的に好きです。自分が登った時は残念ながら天気が悪かったので、来年また登りたいと思います。



兜明神岳山頂

どちらの趣味に関しても医大に入ってからやっていなかったらと思うと残念です。一緒に遊べる先輩・後輩がいて良かったと思います。これからも体力の余る限り、イベントに参加していこうと思います。

次回は、県立中央病院の千葉峻太君に繋がせていただきます。県内で働く数少ない大学の同級生です。よろしくお願いします。



(い わ て)

おしらせ

皆さんご承知とは思いますが2020年は4月25日(土)26日(日)日本医学検査学会が仙台で開催(担当は福島県です)され、さらに北日本支部医学検査学会が10月17日(土)18日(日)盛岡のアイーナで開催されます。どちらも東北での開催ということで北日本支部医学検査学会の一般演題数申し込みの減少が予想されますが、2020年の北日本支部医学検査学会をみんなで成功させるためにより多くの方々に自施設での日頃の運営に関することや症例に関すること等、演題をどしどし応募していただきたいなとおもいます。2020年北日本支部医学検査学会のテーマは『融和と協調』ということで超高齢化に備えてより患者様の役に立つ検査データの提出と他職種連携、また世代を通して幅広い知識を持ち次のステップアップのきっかけとなる検査技師をめざそう!っという感じです。

北日本支部医学検査学会の準備はすでに始動していきまして、皆様にもお声がかかるとおもいます。

日々の業務でご多忙かと思われそうですが、何卒よろしく願いいたします。

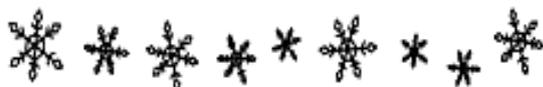
2020年度日臨技 第9回 北日本支部医学検査学会

会期：令和2年10月17日(土)18日(日)

会場：いわて県民情報交流センター「アイーナ」



～編集後記～



あっという間に1年が過ぎていきます。
この前『あたらしい年号は何になるんだろ～ねえ』と言っていたのに。
自然災害も年々被害を増しているように
思います。みなさまも体調を崩さないよう
よい年をお迎えください。



会報「いわて」第328号 2019.12

一般社団法人岩手県臨床衛生検査技師会

発行人：

会 長：行森 良一

事 務 局：下川 波歩

編集責任者：村上 美月

山崎 勝登志

〒020-8505 盛岡市内丸19-1 岩手医大中検内

Tel.(019)613-6111 内線 3699 Fax.(019)654-8510

<http://www.iwateamt.or.jp/>

会報専用メールアドレス：

kaiho@iwateamt.or.jp